

会 議 録

第 1 8 回定例会

開会 平成 2 7 年 1 月 2 8 日

教育委員会会議録

1 開 会 平成27年1月28日 午前10時00分

2 閉 会 平成27年1月28日 午前12時00分

3 出席委員

委員長	松重 和美
委 員	西 泰宏
委 員	田村 典子
委 員	坂口 裕昭
委 員	三牧 千鶴子
委 員（教育長）	佐野 義行

4 出席者

副 教 育 長	小原 直樹
教 育 次 長	松山 隆博
教 育 次 長	藤井 伊佐子
教 育 総 務 課 長	栞原 孝司
コンプライアンス推進室長	武岡 章
教 職 員 課 長	美馬 持仁
学 校 政 策 課 長	草野 純一
人権教育課いじめ問題対策室長	小林 良章
生涯学習政策課長	佐々木 尊
教育総務課副課長	阿部 淳子

[開 会]

委員長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

委員長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

委員長 議案第54号～56号、協議事項1、報告事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

委員長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項2 徳島県学力向上・授業改善調査検討委員会の「報告書」の報告について》

委員長 説明を求める。

学校政策課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

坂口委員：家庭学習の充実の部分が抽象的ではないか。保護者や地域との連携を図るためには、そこのニーズを踏まえて予算を立てなければ、県の取組とはギャップがあるままになる。神山や上勝は、地域の力で家庭学習の充実などに取り組んでいる。地域は鳴門教育大学の専門性を求めているのではない。上勝の例のように、専門家でなくても子供が魅力を感じる人なら子供は勉強する。

三牧委員：上勝のように、地域に応じて具体的な策につなげている例もある。予算の使い方には柔軟性を持って欲しい。学童保育が家庭学習を充実させる場でもあると捉えると、町中でも上勝のやり方が参考になる。

田村委員：学校、家庭、地域が一緒になって子供を信頼して子供が持つ力を引き出していくことが必要。ゆっくりと子供と向き合える時間が学校にあればいいが。

委員長：徳島県の場合、経済的な面からいうと共働きの多い。過疎が進む中、地域の子供を育てるにはどう取り組んでいくのか、地域創生の中に入れて考えていく必要がある。地域からのニーズを踏まえることが必要だ。

教育長：市町村教委との連携が必要である。もっとディスカッションできる場が必要だと思っている。

田村委員：学校の現場は、地域の人にどう協力してもらえればいいのか、どうすれば連携できるのかと戸惑っているのではないかと。

藤井次長：地域の方に炭焼きやそば打ちなどを教えてもらったりするふるさと学習など、いろいろな場面で外部の人の協力を得ている。以前よりも保護者や地域の人学校に入り、結びつきが強くなってきており、地域の人を受け入れる素地はできてきている。

委員長：京都市のものづくりの取組のように、地域に応じた仕組みづくりについて、県として予算を付けることが大事だと思う。

西委員：地元の学校からの会社訪問を受けたことがあるが、年度が替わると途切れてしまう。地域との交流が途切れのないような仕組みづくりが必要。

坂口委員：地域の取組と県の取組がかみ合っていないことはもったいないこと。地域で起きていることをくみ上げ、地元の人を引き立てて地域の取組を支援するということが必要だと思う。

《報告事項 3 平成 26 年度第 3 回徳島県いじめ問題等対策審議会について》

委員長 説明を求める。

いじめ問題等対策室長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

西委員：不登校の定義は、何日間休むと不登校となるのか。

いじめ問題等対策室長：病気等を除く、年間 30 日以上欠席した者である。ずっと連続で休んで 30 日を超える場合もあれば、出席もあるが、欠席日数の合計が 30 日を超えるという場合もある。

委員長：不登校は千人あたり約 11 人ということは、100 人に 1 人ぐらいということですね。

いじめ問題等対策室長：はい。それは小、中学校まとめたの数値になるが、全国的な数値との比較では小学校は少なく、その割に中学校は多くなっている。

委員長：不登校の理由は何か。

いじめ問題等対策室長：家庭のことなど様々である。

[閉 会]

委員長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午前12時00分